

大学生の地域および地域活性化に対するイメージに関する考察

萩原 遼¹・井上憲一^{2,*}

A study of region and regional revitalization image among university students

Haruka Hagiwara¹, Norikazu Inoue^{2,*}

Abstract The purpose of this study is to examine the difference in region and regional revitalization image among university students. This study divides the results of the questionnaire into two groups. We call the group that students are interested in local activities and have experience of local activities the “interested/experienced students,” and the other one the “contrast students.” We compared awareness about regional revitalization and students’ familiar region between the interested/experienced students and the contrast students. Our three main observations are as follows: (1) The interested/experienced students tend to have a broad view of the region and/or regional revitalization, have a high level of interest and pride in the region, and capture the regional images through people. And their sense of ownership in regional revitalization tend to be stronger than the contrast students. (2) The contrast students tend to have less interest and pride in the region, and do not tend to be aware of various physical things in the region. (3) The contrast students tend to image the regional revitalization activities through ordinary rural concepts.

Keywords : Community-university cooperation activity, local activity, region and regional revitalization image, rural area, university student

はじめに

地域活動を進めていくうえで、活動者が地域に対して、身近に思うこと、誇りを持つことは非常に重要であるとされている(鈴木ら, 2008)。さらに、地域イメージとは多様な意味で用いられるイメージを地域に限定したものであり、人の行動を規定する力をもっているものであるとされている(石見ら, 1992)。このことから、筆者は地域に対する誇りや、愛着以外にも、身近にイメージする地域が、大学生の地域活動への関心や経験の出発点となっていると推察する。地域おこしや地域活性化の一助として、日本各

地の地域イメージを明らかにした研究は数多く存在する。佐々木(2003)、富澤(2012)、富澤(2013)、富澤(2015)、大久保(2017)をはじめ、一般住民を対象に回答者の年代や職業といった属性が変われば、各地域に抱いているイメージは変化してくるということが明らかとなっている。萩原・井上(2019)の域学連携の活動実態と意義に関する分析結果から、大学生の地域イメージを明らかにすることにより、域学連携の参考に資することはもとより、域学連携において大学生がより深い学びを得るためのカリキュラム作成の一助にもなり得ると考える。しかし、大学生を対象に、地域活動への関心や活動経験を軸に地域イメージを明らかにした研究は管見の限りみられない。

そこで本研究では、外部人材として地域活動のアクターとなり、将来U・Iターン者となる可能性を秘めている大学生が、地域や地域活性化に対してどのような意識を持っているのかについて、地域や地域活性化の捉え方の違いが存在するのか検証することを目的とする。本研究の地域活動

¹ 株式会社日野洋蘭園 (島根大学大学院自然科学研究科農生命科学専攻博士前期課程修了)

² 島根大学学術研究院農生命科学系

*Corresponding author (ninoue@life.shimane-u.ac.jp)

は、域学連携のような学生と地域住民とが交流を交えながら地域で行う活動とする。

調査内容と分析方法

本研究では、大学生が「身近な地域」と「地域活性化」をどのように捉えているのか明らかにするため、2017年11月～2018年3月に島根大学の学部生283名を対象に、授業時にアンケート調査を実施した（回収率100%）。そのうち、回答不十分の4名を除き、分析対象は279名である。配布対象学生の所属・学年は5学部・1～4回生としたが、自然や第1次産業に興味のある生物資源科学部の学生と、社会経済や文化を学ぶ法文学部の学生、つまり、少なからず地域に興味、関心を持っていることが期待できる学生を中心とした。また、対象学年は、3～4回生では、卒業論文や授業等で地域での活動経験を有しているケースが多いことを考慮し、地域活動への経験が比較的乏しい2回生を中心とした。

アンケートの主な構成は、「属性について」「身近な地域について」「『地域活性化』について」の3つである。また、回答者には、地域を自由にイメージ（設定）してもらったうえで、その地域イメージを軸に、地域や地域活性化に対する意識を回答してもらう形式を採用した。したがって、回答者が個々にイメージする地域の特徴も分析対象とする。

1. 回答者の属性について

属性の項目は、性別、所属、学年、出身地をはじめ、地域との関わりに対する質問に関心度、関わることになったきっかけ、特に関わっている活動、その回数・頻度、関わる際の姿勢、関わっている人物、卒業後も地域と関わりたいか、とした。地域活動については、大学入学後について質問した。

2. 身近な地域について

身近な地域イメージの把握には、既存研究において実績があるSD法を用いる。SD法とは、「あたたかい—冷たい」「明るい—暗い」といったように対立する形容詞を複数示し、地域の実状に該当すると思われる水準の回答を求めるものである（加藤ら、1996）。本研究では、加藤ら（1996）、石見（1992）、村山（2007）を参考に14項目を設定し、5段階評価（1～5点）で行った。以下、この14項目を「心的な地

域イメージ」とする。分析にあたり、14項目を「都市的—農村的」「興味—うんざりする」「明るい—暗い」「奇抜な—普通な」「誇れる—誇れない」「安心感—気づまり」「[にぎやかな—静かな]」「[せわしない—のびやか]」の8つに分類した。

次に、地域に関係する7分類20項目を設定し、「プラスに思う」から「マイナスに思う」までの5段階と「わからない」という項目で評価を行ってもらった。以下、「物的な地域イメージ」とする。分析にあたり、20項目を【内部人物】【外部人材】【産業】【文化】【地域資源】【交流】【教育】の7つに分類した。

3. 「地域活性化」について

地域活性化イメージの把握は、まず、「地域活性化」という言葉の内容を知っている、言葉のみ知っている、知らない、の3択からはじめ、「知らない」を選択した対象者はここで回答終了とした。その後、筆者が設定した12項目を5段階で評価してもらった。また、自由記述欄を設け、「地域活性化」について自由に回答してもらった。分析にあたり、12項目を<参加したい><活力となる><自己成長できる><身近なこと><行政がすること><困難なこと>の7つ（以下、地域活性化に対する意識）に分類した。なお、以下では、心的な地域イメージの項目を[]、物的な地域イメージの項目を【 】、地域活性化の意識の項目を< >で示す。

4. 分析方法

本研究の目的は、大学生が地域や地域活性化に対してどのような意識を持っているのか、地域活動への関心と活動経験を軸に明らかにすることである。そのため、対象者を地域活動への関心と経験を軸に、地域活動関心あり・経験ありの学生173名（以下、関心・経験あり学生グループ）と、それ以外の学生106名（以下、対照学生グループ）にわけた。なお、地域活動への関心に対して、「どちらでもない」と回答した学生は関心なしとみなした。

本研究の仮説として、関心・経験あり学生グループは、対照学生グループより、地域に興味や誇りを有し、かつ住民との積極的な交流経験があることから、興味や誇りと、人物に関する意識と関係を持つ傾向にあることが考えられる。また、興味や誇りや人物に関する意識と、地域活性化に対する意識と特に関係を持つ傾向にあると考えられる。そこで、まず、関心・経験あり学生グループは、対照学生グループより地域に興味や誇りを、あるいは地域活性

化を身近に感じているのか、平均値の差の検定から明らかにする。次に、興味や誇りと、人物に関する意識が関係しているのかを、心的な地域イメージと、物的な地域イメージとの相関関係から明らかにする。最後に、興味や誇りや人物に関する意識と、地域活性化に対する意識と特に関係を持つかを、心的な地域イメージあるいは物的な地域イメージと地域活性化に対する意識から明らかにする。

調査結果

1. 身近な地域イメージと地域活性化イメージ

回答者の属性は表1の通りである。関心・経験あり学生グループは、対照学生グループより地域に対する興味や誇りを、あるいは地域活性化を身近に感じているのかを明らかにするために、平均値の差の検定を行った。その結果、地域活性化イメージの評価については、関心・経験あり学生グループと対照学生グループ間で平均値に有意な差がみられた(表2)。また、両グループとも、地域を静かで田舎的、安心感があると有意に評価していることから、これらは両グループの身近な地域の共通イメージといえる。

関心・経験あり学生グループは、対照学生グループと比べ、身近な地域に対して[興味]や[誇り]を感じており、【内部人物】【交流】といった人物に関すること、特に【外

表1. 回答者の属性

属性	人数
性別	男性 183
	女性 96
所属学部	生物資源科学部 123
	法文学部 86
	総合理工学部 35
	教育学部 32
学年	人間科学部 3
	1回生 63
	2回生 142
	3回生 29
	4回生 35
	大学院生 7
	研究生 3
出身地	島根県内 72
	島根県外 202
	日本国外 5
地域活動に関する関心度	かなり関心がある 49
	やや関心がある 142
	どちらでもない 57
	あまり関心がない 27
	全く関心がない 4

資料：アンケート調査結果より作成。

部人材】にプラスのイメージを持っている。また、地域活性化に対する意識は、〈困難なこと〉であり、〈重要である〉と両グループともに評価している。しかし、〈参加したい〉〈活力となる〉〈自己成長できる〉〈身近なこと〉という項目において、対照学生グループがどちらともいえないという結果に対して、関心・経験あり学生グループはそう思うと評価し、有意差がみられた。加えて、有意差はみられなかったものの、対照学生グループが地域活性化は〈行政がすること〉であると捉えているが、関心・経験あり学生は、どちらかといえばそうでないと捉えている傾向がみられた。

2. 心的な地域イメージと物的な地域イメージ

次に、興味や誇りと、人物に関する意識が関係しているのかを、心的な地域イメージと、物的な地域イメージとの相関関係から明らかにする。

まず、関心・経験あり学生グループは、全体的に多くの

表2. 地域イメージと地域活性化に対する意識の平均点

	関心・経験あり学生グループ	対照学生グループ	
回答数	173	106	
心的な地域イメージ	都市的	2.06	2.27 *
	興味	3.34	2.84 **
	明るい	3.39	3.21
	奇抜	2.84	2.59 *
	誇れる	3.79	3.32 **
	安心感	4.27	3.97 **
	にぎやかな	2.79	2.56 *
物的な地域イメージ	せわしない	1.81	2.09 **
	内部人物	3.56	3.38 *
	外部人材	3.53	3.08 **
	産業	3.29	3.11 *
	生活環境	2.92	2.76
	文化	4.19	3.85 **
	地域資源	3.46	3.34
	交流	3.77	3.56 *
	教育	4.27	4.04 *
	参加	3.91	3.00 **
地域活性化に対する意識	活力	3.80	3.22 **
	自己成長	4.18	3.76 **
	身近なこと	3.67	2.73 **
	重要	4.39	4.00 **
	行政	2.97	3.15
困難	3.61	3.44	

注：1) 5件法で質問した結果を1~5点に配点している。

2) **, *はそれぞれ、平均値の差の検定により、1%、5%水準でグループ間に有意差があることを示す。

項目で有意な相関関係を示していることがわかる(表3)。特に心的な地域イメージの[興味][明るい][誇り]では、物的な地域イメージの多くの項目と有意な関係を示した。しかし、対照学生グループは、関心・経験あり学生グループに比べ、全体的に有意な相関関係を示した項目が少ない(表4)。

関心・経験あり学生グループでは、[興味][誇れる]と物的な地域イメージの7つあるいは5つと、多くの項目と有意な相関関係を示している。しかし、対照学生グループでは、関心・経験あり学生グループと比べると、心的な地域イメージの[興味][誇れる]と、有意な相関関係を示した物的な地域イメージは1つあるいは3つと少ない。また、[興味]と【文化】では2者間で正負の関係が異なるが、他の項目では正負が異なるものはみられない。さらに、物的な地域イメージの【交流】と【生活環境】に着目すると、関心・経験あり学生グループは【生活環境】よりも【交流】の有意な相関関係を示した項目が多かった。一方、対照学生グループは【交流】よりも【生活環境】の相関関係を示した項目が多くみられた。また、2グループの[明るい]との相関関係についてみていくと、関心・経験ありの学生では【外部人材】と、対照学生は【生活環境】と、異なる項目が有意な関係を示した。

3. 心的な地域イメージ, 物的な地域イメージ, および地域活性化に対する意識との相関関係

ここでは、興味や誇りや人物に関する意識と、地域活性化に関する意識と特に関係を持つかを、心的な地域イメージ、物的な地域イメージ、および地域活性化に対する意識との相関関係を2グループ間で比較する。表5より、関心・経験あり学生グループは、全体的に多くの項目と有意な相関関係を示しているが、対照学生は、有意な相関関係を示した項目が少なく、先に行った心的な地域イメージと物的な地域イメージとの相関関係と同様の傾向であった。関心・経験あり学生グループは、地域イメージの[興味][明るい][奇抜な][誇れる]と、地域活性化に対する意識の〈参加したい〉〈活力〉〈身近なこと〉と有意な相関関係を示した。一方、表6では、対照学生グループは、有意な相関関係がみられず、正負が異なる相関関係を示しているものが存在する。加えて、〈身近なこと〉と[明るい][奇抜な][誇れる][にぎやかな]との関係が、関心・経験あり学生グループでは正、対照学生グループでは負の相関関係を示している。地域活性化イメージの〈重要なこと〉では、地域イメージの[興味][奇抜][誇れる][生活環境][文化][交流]において、2グループ間で正負が異なる。加えて、〈行政

表3. 関心・経験あり学生グループの物的・心的地域イメージ得点間の相関係数

	都市的	心的な地域イメージ							
		興味	明るい	奇抜	誇れる	安心感	にぎやかな	せわしない	
物的な 地域 イメージ	内部人物	-0.058	0.330 **	0.260 **	0.023	0.264 **	0.237 **	0.202 **	-0.065
	外部人材	0.065	0.286 **	0.214 **	0.111	0.181 *	0.048	0.090	0.011
	産業	0.037	0.277 **	0.167 *	0.092	0.134	0.138	0.098	-0.049
	生活環境	0.304 **	0.202 **	0.020	0.042	0.066	-0.039	0.203 **	0.259 **
	文化	-0.182 *	0.348 **	0.114	0.039	0.279 **	0.344 **	-0.021	-0.150
	地域資源	0.121	0.147	-0.006	0.174 *	0.070	-0.010	0.034	0.036
	交流	-0.140	0.345 **	0.277 **	0.155 *	0.226 **	0.279 **	0.059	-0.235 **
	教育	0.087	0.268 **	0.265 **	0.200 **	0.280 **	0.148	0.226 **	0.044

注: **, *はそれぞれ, 1%, 5%水準でゼロと有意差があることを示す。

表4. 対照学生グループの物的・心的地域イメージ得点間の相関係数

	都市的	心的な地域イメージ							
		興味	明るい	奇抜	誇れる	安心感	にぎやかな	せわしない	
物的な 地域 イメージ	内部人物	0.050	0.165	0.226 *	0.210 *	0.194 *	0.286 **	0.145	-0.060
	外部人材	0.186	0.122	0.118	0.201 *	0.009	-0.077	0.166	0.044
	産業	0.076	0.148	0.269 **	0.413 **	0.131	0.124	0.262 **	0.047
	生活環境	0.358 **	0.292 **	0.281 **	0.237 *	0.083	0.010	0.260 **	0.086
	文化	-0.262 **	-0.011	0.070	-0.027	0.249 *	0.471 **	-0.144	-0.197 *
	地域資源	-0.090	0.182	0.159	0.176	0.117	0.039	0.174	-0.012
	交流	-0.161	0.150	0.318 **	0.242 *	0.172	0.330 **	0.152	-0.122
	教育	0.003	0.085	0.280 **	0.289 **	0.240 *	0.218 *	0.060	-0.184

注: 表3の注と同じ。

のすること)と[安心感]【生活環境】【地域資源】との関係においても、関心・経験あり学生グループでは正、対照学生グループは負の相関関係を示している。

このことから、関心・経験あり学生は、生活環境や地域資源などプラスに捉えているもの、つまり魅力となるものが重要であり、行政に支援してほしいと捉え、対照学生は、生活環境や産業などマイナスに捉えているもの、すなわち問題となっているものが重要であるため、行政に何ら

かの対策を講じてほしいと捉える傾向にあることを示唆していると考えられる。

表7は、両学生グループの「地域の誇り」と「地域活性化」に関する自由記述のテキストの出現傾向をみたものである。関心・経験あり学生グループは、人物に関する出現割合が両項目とも有意に高く、「地域の誇り」では活動性、「地域活性化」では経済に関する出現割合が有意に高い結果となった。

表5. 関心・経験あり学生グループの地域イメージと地域活性化に対する意識の得点間の相関係数

		地域活性化に対する意識						
		参加	活力	自己成長	身近なこと	重要	行政	困難
心的な 地域 イメージ	都市的	-0.039	0.026	-0.153	-0.052	-0.116	-0.006	-0.056
	興味	0.295 **	0.328 **	0.254 **	0.278 **	0.204 *	-0.229 **	-0.092
	明るい	0.167 *	0.231 **	0.216 **	0.128	0.112	-0.149	-0.216 **
	奇抜	0.246 **	0.280 **	0.162	0.310 **	0.117	-0.160	-0.126
	誇れる	0.245 **	0.231 **	0.162	0.225 **	0.195 *	-0.104	0.012
	安心感	0.179 *	0.247 **	0.230 **	0.054	0.186 *	0.017	-0.014
	にぎやかな	0.041	0.157	0.031	0.151	-0.054	0.016	-0.096
	せわしない	-0.019	-0.059	-0.141	0.013	-0.116	-0.067	0.041
物的な 地域 イメージ	内部人物	0.133	0.233 **	0.224 **	0.146	0.080	-0.032	-0.117
	外部人材	0.148	0.068	0.115	0.110	0.117	0.025	-0.163 *
	産業	0.083	0.093	0.156	0.030	0.119	0.097	-0.042
	生活環境	0.158	0.175 *	-0.003	0.016	0.042	0.049	-0.106
	文化	0.105	0.169 *	0.231 **	0.024	0.315 **	0.037	-0.049
	地域資源	-0.051	0.066	0.151	-0.105	0.063	0.191 *	-0.004
	交流	0.179 *	0.280 **	0.276 **	0.102	0.210 *	-0.086	-0.155
	教育	0.169 *	0.110	0.200 *	-0.021	0.118	0.070	0.019

注：表3の注と同じ。

表6. 対照学生グループの地域イメージと地域活性化に対する意識の得点間の相関係数

		地域活性化に対する意識						
		参加	活力	自己成長	身近なこと	重要	行政	困難
心的な 地域 イメージ	都市的	-0.078	0.037	-0.174	0.047	-0.135	-0.087	-0.107
	興味	0.034	0.224 *	0.009	0.140	-0.234 *	-0.364 **	-0.273 *
	明るい	-0.184	-0.078	0.026	-0.019	-0.084	-0.054	-0.059
	奇抜	-0.085	0.075	-0.160	-0.145	-0.203	-0.096	-0.110
	誇れる	0.021	0.022	-0.025	-0.170	-0.175	-0.124	-0.218
	安心感	0.261 *	0.324 **	0.262 *	-0.014	0.020	-0.139	-0.087
	にぎやかな	-0.083	-0.024	-0.146	-0.084	0.050	-0.022	0.001
	せわしない	-0.096	-0.111	-0.206 *	-0.048	-0.111	0.093	-0.070
物的な 地域 イメージ	内部人物	0.226 *	0.270 *	0.294 *	0.118	-0.003	0.037	-0.114
	外部人材	0.033	0.121	0.195	0.170	0.077	0.167	-0.017
	産業	-0.050	0.017	-0.092	-0.159	-0.209	-0.111	-0.172
	生活環境	-0.042	0.013	-0.090	-0.137	-0.305 **	-0.212	-0.157
	文化	0.140	0.058	0.188	-0.063	-0.107	-0.016	-0.150
	地域資源	0.120	-0.009	-0.005	-0.040	-0.124	-0.069	-0.202
	交流	0.101	0.037	0.056	0.092	-0.092	0.129	-0.018
	教育	-0.057	0.053	0.180	-0.012	0.031	0.131	-0.096

注：表3の注と同じ。

表7. 「地域の誇り」「地域活性化」テキストにおける関連用語の出現割合

	地域の誇りテキスト		地域活性化テキスト		
	関心・経験あり学生グループ	対照学生グループ	関心・経験あり学生グループ	対照学生グループ	
	回答数	126	48	103	40
人物	54.0	37.5 *	60.2	40.0 **	
自然	38.9	33.3	2.9	0.0	
経済	11.1	8.3	24.3	5.0 ***	
歴史	19.8	10.4	8.7	2.5	
上記のうち2つ以上出現	33.3	16.7 **	24.3	2.5 ***	
生活	11.9	20.8	—	—	
安心感	33.3	22.9	—	—	
活動性	26.2	10.4 **	14.6	10.0	
行政	—	—	7.8	5.0	
困難	—	—	18.4	12.5	
継続	—	—	6.8	7.5	

注：***, **, *はそれぞれ、比率の差の検定により、1%, 5%, 10%水準でグループ間に有意差があることを示す。

考 察

本研究では、地域活動への関心・経験を軸に学生を分け、それぞれが身近な地域や地域活性化をどのように捉えているのかを明らかにした。本節では、関心・経験あり学生と対照学生と比較し、2者の地域あるいは地域活性化に対するイメージの違いを明らかにする。関心・経験あり学生と対照学生との違いとして、次の4点が挙げられる。

第1は、地域への興味や誇りの高さである。平均値の差の検定から、関心・経験ありの学生は、地域への興味や誇りが対照学生と比較して、高く評価していることが明らかとなった。心的な地域イメージと物的な地域イメージとの相関関係より、関心・経験あり学生グループの興味や誇りの項目において、物的な地域イメージの7つの項目と、対照学生グループは物的な地域イメージの1～3つの項目と有意な相関関係を示した。しかし、[興味]と【文化】との関係を除き、相関関係の正負が異なるものはみられなかった。つまり、関心・経験ありの学生の地域への興味や誇りは、地域の物的なもののさまざまな意識に強くつながっていると考える。対照学生の地域への興味や誇りは、関心・経験あり学生ほど地域の物的なものの意識につながらない傾向にあるといえる。また、心的な地域イメージおよび物的な地域イメージと地域活性化に対する意識との相関関係から、関心・経験あり学生グループは、地域イメージの

[興味][誇り]と、地域活性化に対する意識の〈参加したい〉〈活力〉〈身近なこと〉と有意な相関関係を示した。一方で、対照学生グループは有意な相関関係を示さず、誇りと〈身近なこと〉との関係にいたっては負の相関関係を示した。加えて、[明るさ][奇抜な]と〈参加したい〉〈活力〉〈身近なこと〉とのそれぞれの関係をみると、関心・経験あり学生グループは正の、対照学生は負の相関関係を示した。このことから、関心・経験あり学生は地域への興味・誇りや、地域の明るさ・奇抜さが地域活性化活動への参加や身近なことであるという、地域活性化に対する主体的な意識となっていることがうかがえる。一方、対照学生は地域への興味や誇りは、関心・経験あり学生ほど強い活動要因とならず、地域の暗さ・平凡さ、いわゆる田舎の雰囲気あるいは農村問題などがあるような地域に対して活動したい、身近な地域であると捉えているのではないかと考える。これらの結果から、関心・経験あり学生は、地域に対する興味や誇りを強く持ち、地域への興味や誇りが地域のさまざまな物的なものの意識に、あるいは地域活性化の主体的な意識となっている傾向にあるといえる。一方、対照学生は、地域に対する興味や誇りは関心・経験あり学生ほど強くはないため、地域のさまざまな物的なものの意識にはつながらない傾向にある。しかし、田舎の雰囲気や農村問題などがあるような地域で、地域活性化活動を行いたいと捉えているのではないかと考える。

第2は、地域を捉えている対象物が人物であるのか、生

活環境であるのかである。まず、平均値の差の検定から、関心・経験あり学生グループは、対照学生グループと比べ、人物に関すること、特に外部人材に対してプラスのイメージを持っていることが明らかとなった。次に、心的な地域イメージと物的な地域イメージとの相関関係から、物的な地域イメージの【交流】と【生活環境】に着目すると、関心・経験あり学生グループは【生活環境】よりも【交流】、対照学生グループは【交流】よりも【生活環境】との相関関係を示した項目が多くみられた。また、関心・経験あり学生は、地域内外の人物の活気、活動性から地域を捉えており、対照学生は産業や、日常生活の快適さをものさしとして、地域を捉えていることがうかがえた。テキストの用語の出現度合いの結果からも、関心・経験あり学生は、地域の誇りや地域活性化を、人物から捉え、対照学生は自分の生活に関する用語を記述している傾向にあった。

第3は、地域活性化を身近に捉えているかである。まず、平均差の検定からも明らかのように、関心・経験あり学生は、対照学生に比べて、地域活性化を身近なものと捉えていることがわかる。さらに、対照学生グループは地域活性化を行政がすることであると捉えているが、関心・経験あり学生グループは、どちらかといえばそうではないと捉えている傾向にあった。次に、地域活性化に対する意識の〈重要なこと〉あるいは〈行政のすること〉と心的なおよび物的な地域イメージとの相関関係から、関心・経験あり学生が行政に魅力となるものを行政に支援してほしい、対照学生が行政に問題となっているものに策を講じてほしいと捉えていることから、関心・経験あり学生は、対照学生に比べ、まずは自分たちで地域の問題を解決しようという意思が相対的に強い傾向にあると考える。

第4は、地域あるいは地域活性化イメージに対して広い視野を持っているのかということである。まず、心的な地域イメージと物的な地域イメージとの相関関係の結果、あるいは心的な地域イメージおよび物的な地域イメージと地域活性化に対する意識との相関関係の結果から、関心・経験あり学生グループは、全体的に多くの項目と有意な相関関係を示している。一方で対照学生は、有意な相関関係を示した項目が少なかった。また、地域活動への関心・経験を有していることから、地域活性化に経済的な視点が必要であること、長い時間がかかることといったように、地域活動への関心・経験を有しているからこそその捉え方なのではないかと考える。さらに、自由記述のテキスト分析の

結果では、関心・経験あり学生グループの方が、地域の誇りや地域活性化に関するテキストで複数の種類の用語群が有意に出現している。これらの結果から、関心・経験あり学生は、地域あるいは地域活性化イメージに対して広い視野を有している傾向にあると考える。

謝 辞

本論文は、筆頭著者（萩原）が島根大学生物資源科学部農林生産学科農村経済学教育コースならびに島根大学大学院自然科学研究科農生命科学専攻博士前期課程に在籍中の研究成果をまとめたものである。本研究の遂行にあたり、同コースの学生はもとより、学部内外の多数の学生にご協力をいただいた。厚くお礼を申し上げ、感謝の意を表します。

引用文献

- 萩原 遼・井上憲一（2019）同一地域における継続的な域学連携の活動実態と意義。農林業問題研究, 55(3) : 127-134.
- 石見利勝・田中美子（1992）地域イメージとまちづくり。技報堂出版, 東京.
- 加藤哲男・川上洋司・本多義明（1996）地域イメージに関する認知構造の研究。都市計画論文集, 31 : 337-342.
- 村山研一（2007）地域ブランド戦略と地域ブランド政策。地域ブランド研究, 3 : 1-25.
- 大久保幸夫（2017）中山間地域住民の地域に関するイメージ分析：鹿児島県いちき串木野市羽島地区を事例として。地域総合研究, 45(1) : 1-17.
- 佐々木秀一（2003）住民による秋田市の地区別地域イメージの内部格差とその要因。秋大地理, 50 : 25-28.
- 富澤拓志（2012）地域イメージの調査：鹿児島県日置市飯牟礼地区での調査を例として。地域総合研究, 40(1) : 19-34.
- 富澤拓志（2013）鹿児島県南さつま市金峰白川地区における地域イメージの調査。地域総合研究, 41(1) : 1-11.
- 富澤拓志（2015）鹿児島市花尾町における地域イメージの調査。地域総合研究, 42(2) : 53-74.